

第 37 期 事 業 報 告

(自 2025年4月 1日)
(至 2026年3月31日)

株式会社 NHKエンタープライズ

目次
第37期事業報告

| | |
|----------------------------------|----|
| I. 会社の現況に関する事項 | 3 |
| 1. 事業の経過および成果 | 3 |
| 2. 事業の分野別の概況 | 4 |
| (参考) 2025年度 コンクール等受賞一覧 | 22 |
| 3. 対処すべき課題 | 25 |
| 4. 設備投資等の状況 | 26 |
| 5. 資金調達の状況 | 26 |
| 6. 事業譲渡・吸収分割または新設分割の状況 | 26 |
| 7. 事業譲受の状況 | 26 |
| 8. 他の会社の株式その他の持ち分または新株予約権等の取得の状況 | 26 |
| 9. 財産および損益の状況の推移 | 27 |
| 10. 主要な事業内容 | 27 |
| 11. 主要な事業所等 | 28 |
| 12. 従業員の状況 | 28 |
| 13. 重要な親会社および子会社の状況 | 28 |
| 14. 主要な借入先と借入額 | 29 |
| II. 会社の株式に関する事項 | 30 |
| III. 会社役員に関する事項 | 30 |
| IV. 会計監査人の状況 | 32 |
| V. 業務の適正を確保するための体制および運用状況 | 33 |

I. 会社の現況に関する事項

1. 事業の経過および成果

「2024-2026年度 中期経営計画」の2年目に当たる2025年度、株式会社NHKエンタープライズ（NEP）は、計画で掲げた5つの重点項目を柱に、定時や特集の数多くの番組やイベント・デジタルコンテンツの制作、ライセンスの許諾、映像ソフトの販売など、様々な分野で積極的な取り組みを続けました。NHKの事業支出削減の方針を受け、NHK委託が本格的に減少する中でも、数多くの番組の開発を進め、番組を展開したイベントやサービスを全国で行うなど、部門の連携を深めて事業の強化に努めました。

当期の売上高は634億1千3百万円、営業利益は44億9千7百万円、経常利益は46億4千1百万円、当期純利益は32億3千7百万円。いずれも前年度決算を上回り、目標とする事業計画を達成し、営業利益はNEP史上最高額となりました。中期経営計画で掲げた、NHKグループのIPを展開する事業の拡大を全社で進めたことや、価格高騰が続く中でも効率的なコンテンツ制作や徹底したコスト管理に取り組んだことの成果と考えています。

NHK関連業務では、幅広い世代に向けて多彩な番組を制作。看板番組の「チョコちゃんに叱られる！」や「映像の世紀バタフライエフェクト」などに加えて、特集番組では、NHKスペシャル「命を診る 心を診る ～小児集中治療室の日々～」「K2 未踏のライン 平出和也と中島健郎の軌跡」「恐竜超世界4」など、NHKならではの綿密な取材や迫力のある映像が大きな反響を呼びました。ドラマでは、「幸せは食べて寝て待て」「テミスの不確かな法廷」「ひらやすみ」など、話題となり高い評価も得た作品を手がけたほか、世界配信で大ヒットした国際霊柩送棺士たちの物語「エンジェルフライト」を総合テレビで放送。続編の「エンジェルフライト・ザ・ムービー」も制作し配信を始めました。

番組と連動した事業では、大河ドラマ「べらぼう」「豊臣兄弟！」や連続テレビ小説「あんぱん」「ばけばけ」を中心に、番組と連動したトークライブ、パブリックビューイングなど各種の関連イベントを自治体とも協力して各地で開催。多くの参加者を集め、地域の振興にも資する取り組みとなりました。

その他のイベントでは、大阪・関西万博の開会式や三重県での「全国豊かな海づくり大会」、長崎県での「国民文化祭」「全国障害者芸術・文化祭」、パラスポーツを応援する東京都のイベントなど、公共性や社会貢献度、地域貢献度の高い事業に精力的に取り組みました。また、エンターテインメントの分野でも、日本初の本格的国際音楽賞「MUSIC AWARDS JAPAN 2025」のステージを担当するなど、高い制作力を発揮しました。

力を入れている展開事業では、長年制作してきたテレビアニメの映画版として一昨年公開

した「劇場版 忍たま乱太郎 ドクタケ忍者隊 最強の軍師」の大ヒットを受けて、アニメ旧作の配信、ミュージカル「忍たま乱太郎」などの舞台公演、さまざまなキャラクターグッズなど、多彩な発信を行って、より多くの人に「忍たま」の魅力をお届けすることができました。

次期2026年度も、当社の強みである「制作」と「展開」の両輪の連携・強化をより一層進めることで、NHKブランドの魅力を広く国内外に発信して、副次収入などによるNHKへの財政貢献をしっかりと果たしていきます。経営理念「Enterprises for All! 冒険、創造、貢献。社会のために、すべての人のために!」のもと、真のコンテンツ総合企業としてNHKに貢献し、社会に多様な価値を提供する取り組みを、全社一丸となって推進していきます。

2. 事業の分野別の概況

(1) <放送番組制作>

2025年度は、NHK委託の減少が本格化する中でも、多くの視聴者に訴求できる上質で見応えのある多様な番組の開発・制作に取り組みました。ドラマやドキュメンタリー、アニメやエンターテインメントなどNHKのテレビやラジオを合わせて年間で17,647本の番組を制作。売上高は378億3千1百万円でした。

番組コンクール関係では、担当した「NHKスペシャル 坂本龍一 最期の日々」が、ともに世界で最も歴史と権威のある国際コンクールと言われる、イタリア賞（共和国大統領特別賞とイタリア賞）と国際エミー賞、アニメ「ルカと太陽の花」がベネチアテレビ賞最優秀賞とアメリカ・フィルム・フェスティバル最優秀賞、「NHKスペシャル ディープオーシャン 幻のシーラカンス王国」がIBCイノベーション・アワード最優秀賞と科学技術映像祭文部科学大臣賞、「ドラマ10 東京サラダボウル」「また あした～都営 東粕谷六丁目アパートの1年～」がATP賞テレビグランプリ優秀賞、「NHKスペシャル 創られた“真実” ディープフェイクの時代」がサイバーセキュリティアワード大賞、「プチプチ・アニメ こにぎりくん」がキネコ国際映画祭グランプリなど、他にも多くの国内外のコンクールで受賞し、制作力の高さを示しました。

制作企画部

制作4センターの調整役として、事業提案のとりまとめや委嘱業務審査会の事務局業務、外部リソース調整業務や番組の音響効果業務を行いました。

社会文化部

NHKらしさを追求した質の高いコンテンツの制作を継続して行いました。総合テレビで放送したNHKスペシャル「命を診る 心を診る ～小児集中治療室の日々～」では、小児集中治療室で治療を行う患者とその家族、彼らと向き合う医師とスタッフたちの最前線を半年に渡って記録しました。また「K2 未踏のライン 平出和也と中島健郎の軌跡」では、2024年に世界第2の高峰・K2に登山中に遭難した登山家、平出和也と中島健郎の全人未踏の挑戦を描きました。両番組は、いずれも第63回ギャラクシー賞のテレビ部門で奨励賞を受賞しました。夜ドラ「ひらやすみ」では、原作マンガの世界観をそのままに“日々の暮らしを普通に生きることの大切さ”を描き、総合世帯視聴率は、全20回平均で5.6%、最高視聴率は7.2%と2025年度の夜ドラの最高値を記録しただけでなく、GLOBAL OTT AWARDS (釜山) ベストアジアコンテンツ賞/助演女優賞にもノミネートされました。このほか、定時番組「チョコちゃんに叱られる!」「有吉のお金発見 突撃!カネオくん」「所さん! 事件ですよ」「映像の世紀 バタフライエフェクト」「時をかけるテレビ」「午後 LIVE ニューズーン」のほか、特集番組「日本最強の城 スペシャル」、「熱談プレイバック」などを制作。Eテレでは、「ギョギョッとサカナ★スター」「名将たちの勝負メシ」「ウチのどうぶつえん」「小雪と発酵おばあちゃん」のほか、ETV特集「枯葉剤の傷痕を見つめて～ベトナム戦争終結から50年～」、「仲代達矢が歩んだ役者道」、BSでは「球辞苑」「COOL JAPAN ～発掘! かつこいいニッポン～」「カールさんとティーナさんの古民家村だより」、BSスペシャル「ウクライナ 捕虜たちの帰還」「捨てられた紙と老人の物語～韓国・高齢社会の今～」「希望の灯 アジア女子大学 ～未来を切り拓く女性たち～」、ヤマザキマリさんが旅する紀行番組「7つの新発見の旅! ローマ帝国を大横断 エジプト～モロッコ5000キロ」、プレミアムドラマ「京都人の密かな愉しみ Rouge-継承-」、大型中継番組「新年! 福めぐりニッポン」、「第98回 アカデミー賞 受賞式」などを手がけたほか、BSプレミアム4Kでは「世界ふれあい街歩き」「体感! グレートネイチャー」「英雄たちの選択」「新日本風土記」、NHKワールドで「DESIGN×Stories」、「Trails to Oishii Tokyo」などを制作しました。

また、大阪・関西万博では、270度の壁面ウォール・床面プロジェクション・天井吊り下げキューブ型立体LEDが組み合わさった複雑なステージを活用した開会式のプロデュースや、東京都のパラスポーツ普及啓発事業「TEAM BEYOND」のイベントの企画・運営や配

信動画の制作、「NTT R&D フォーラム」の展示映像の設計・制作や基調講演の演出・動画配信など、大型映像から配信動画制作のほか、地球温暖化の現実をわかりやすく編集したアニメ動画教材「FUTURE KID TAKARA（フューチャーキッド タカラ）」や映画「ブーニン 天才ピアニストの沈黙と再生」の制作など、多岐に渡る映像表現に取り組んでいます。

自然科学部

3つの人気定時番組、総合テレビ「ダーウィンが来た!」「さわやか自然百景」、BS「ワイルドライフ」を軸に、生きものや自然の尽きない魅力を視聴者に届けました。また日本を代表する自然コンテンツの制作集団としてNHKスペシャル「恐竜超世界3」「ホットスポット最後の楽園 Season4」（2本）を放送。特集番組では、総合テレビ「上皇さまとハゼ ～研究者の素顔～」、BS「ジオ・ジャパン絶景100の旅」（5本）「絶景！ヨーロッパの山小屋2025」、また8K「PANDA パンダ 野生の素顔」「恐竜超体感シアター」（2本）など、多彩なラインナップで視聴者層の拡大に努めました。

自主事業では、2027年に横浜で開催される国際園芸博覧会の実施設計や、大阪・関西万博での展示映像として北海道大学や金沢大学の映像制作を手がけました。また、ジャイアントスクリーンやフライングシアター、VR体験型映像の開発など、新たな映像事業にも取り組み、北米、インド、台湾などで実現に向けた取り組みを進めています。

地域部

7つの地域支社と連携して全国各地の魅力を伝えました。主な番組は総合「うまいッ!」「あさいち 愛でたい nippon・いまオシ! LIVE」「午後 LIVE ニュースーン生中継・トークコーナー」、BS・BSP4K「釣りびと万歳」、国際「Train Cruise」など。また、総合「明日をまもるナビ」では、水戸局・仙台局で公開収録を実施、地元で起きた災害の教訓を伝えました。さらにBS・BSP4K「にっぽん縦断こころ旅」「発見! 離島のほんわか暮らし」、国際「Spiritual Explorers」では、各地で暮らしや伝統を守る人々を紹介しました。加えて、BS・国際「大相撲どすこい研」をベースに、総合・BS「大相撲100年特番」、総合「ロンドン公演企画」、国際「青安錦特番」など様々な展開を図りました。その他、総合・BS「テレビ×マジック 奇跡の超進化スペシャル」、冬季オリンピックに合わせてEテレ・BS「ぼくらはマンガで強くなった メダリスト」、総合「未来への手紙2026～あれから15年たちました～」などの特集番組を制作しました。

自主事業ではカナダ観光局から大阪・関西万博でのイベントと映像制作を受託。連続テレビ小説「花子とアン」でヒロインを演じた吉高由里子さんが、カナダのプリンスエドワード

島を旅する番組を制作して、BS・BS4Kで放送されました。また大林組から京都の歴史的建造物「弥栄会館」改築の記録撮影と動画制作を受託。さらに連続テレビ小説「あんばん」の舞台の高知県南国市から企画展を、大河ドラマ「べらぼう」のパブリックビューイングとトークショーを中央区観光商業まつり実行委員会から受託するなど、NHK IPの展開にも積極的に取り組みました

国際部

国際放送では世界の気候変動を取り上げる新番組「IMFACTS: Climates Change the World」のほか「Anime Manga Explosion」「Ethical Every Day」「Yokai」「Culture Crossroads」など日本の社会文化について世界に発信する番組を多数制作しました。国内放送では「NHKスペシャル 臨界世界 1万キロに人生かけて 中国ドライバー ロシアへ」「空旅中国 司馬遷 “歴史” の絶景へ」「BSスペシャル モサド ポケベル爆発事件の全貌」「魔法の庭ダールメイン～再発見 命のつながり～」など、世界の今を伝えるドキュメンタリーや紀行番組を制作。また「WRC世界ラリー選手権」を1年に渡ってシリーズで放送したほか、クライミングワールドカップなどのアーバンスポーツの世界大会についても紹介しました。

番組制作支援業務としては、海外現地法人のNHKコスモメディアアメリカ（NCMA）に、大谷翔平選手など日本人選手が活躍するMLBの中継やBS・国際の定時と特集の番組制作を委託してきました。またアメリカ・ニューヨークのスタジオからの国際「NEWS LINE」の制作・送出業務やスタジオ運用管理業務も委託。現地にNCMAという拠点を持つ強みを生かし、幅広くNHKの番組制作を支えました。さらにタイにおいても、当社が出資する Nippon Production Service（NPS）を通じて、国際放送の取材・制作支援や現地向けNHK番組販売などの分野で業務を推進しました。

ドラマ部

総合テレビでは、多数のドラマを制作しました。ドラマ10では「しあわせは食べて寝て待て」（ギャラクシー月間賞受賞）「シバのおきて」「テミスの不確かな法廷」など話題作を連発し、「テミス」はAmazonプライムでも配信され、多くの視聴者を獲得することができました。土曜ドラマでは、Amazonで配信され大好評を博した米倉涼子主演「エンジェルフライト」が初めて地上波で放送され大きな話題となりました。夜ドラでは、人気小説が原作の「あおぞらビール」を制作。夜の深い時間にお届けするキャンプ飯の魅力が注目されました。BSでは、BS時代劇で、小芝風花主演の人気作「あきない世傳 金と銀2」や高橋克典主演の「大岡越前8」などシリーズものに加え、新作で佐々木蔵之介主演の「浮

浪雲」を制作。さらに単発ドラマでは、連続テレビ小説「虎に翼」のスピノフ「山田轟法律事務所」を制作。「虎に翼」ファンを大いに沸かせました。また年度末に長谷川博己主演の「眠狂四郎」、亀梨和也主演の「銭形平次」の二つの大型時代劇を総合テレビ向けに制作。

「眠」はAmazonでも配信されました。正月にはムロツヨシ主演「雪煙チェイス」、3月には岡田恵和作・芦田愛菜主演「片想い」も総合で放送。両作ともみずみずしい演出が評価されました。

自主事業では、Amazon配信事業で「エンジェルフライト」の続編「エンジェルフライト・ザ・ムービー」を制作・配信開始。オリジナル実写映画としては歴代トップの視聴数を記録しました。また映画「岸辺露伴は動かない」第2弾の「懺悔室」が公開され、好調な興行収入成績を残しました。更に「劇場版正直不動産」も制作し、2026年5月からの公開を控えています。「べらぼう 大河ドラマ館」は台東区に、また1月からは「豊臣兄弟！大河ドラマ館」を名古屋市・長浜市・大和郡山市の3地域にオープン。各館とも順調に来場者を迎えています。

オープンセットの撮影施設「ワープステーション江戸」は、NHK関連で大河ドラマ「べらぼう」朝ドラ「あんぱん」をはじめBS時代劇・特集ドラマなどの撮影を実施。そのほか外部への貸し出しも順調で、映画や配信ドラマなど多方面で利用され、中近世・近現代を問わず、関東随一の時代劇用オープンセットとして、存在感を増しています。

エンターテインメント部

定時番組では、総合テレビで「みんなのうた」「演芸図鑑」「ひむバス！」「ザ・グレイテスト・ヒッツ」など、Eテレでは「日本の話芸」「診察中！こどもネタクリニック」「古典芸能への招待」などを制作。BSでは「新・BS日本のうた」「The Covers」「クラシック倶楽部」などを制作しました。音声波ではクラシックからジャズ、ポピュラー、バラエティーまで、多様なジャンルでラジオファンのニーズに応える番組を制作しました。特集番組では、BS「歌える！青春のベストヒット」シリーズや「六角精児の呑み鉄本線・日本旅」「鉄オタ選手権」「伝説のコンサート」など、多くのファンを持つ人気番組を制作しました。

自主事業では、東京ドームで開催した音楽イベント「MUSIC EXPO LIVE 2025」を主催。また国際音楽賞「MUSIC AWARDS JAPAN 2025」の第1回の授賞式の制作を受託しました。他にも、クラシック「古澤巖×ベルリンフィル」や落語会「東西激闘競演会」などさまざまなジャンルのイベントを主催。さらに「NHK紅白歌合戦」への演出・PR協力などにも尽力しました。

語版展開部

海外ドラマでは、総合テレビ「アストリッドとラファエル5・6 文書係の事件録」、Eテレ「超能力ファミリー サンダーマン～秘密大作戦」、BSP4K・BS「三国志外伝 愛と悲しみのスパイ」などの日本語吹き替え版を制作したほか、原田マハの小説「旅屋おかえり」に着想を得た韓国ドラマ「マイ・ラブリー・ジャーニー」の日本語字幕版を制作しBSで放送されました。また、BSP4K・BS8K「DOC（ドック）3 あすへのカルテ」「シェイクスピア&ハサウェイの事件簿」など多くの海外ドラマの日本語版を制作し、NHKの4K・8K放送の充実に貢献しました。

海外ドキュメンタリーでは、「BS世界のドキュメンタリー」やEテレ「地球ドラマチック」の日本語版などを制作し、海外の最新的话题を視聴者にお届けしています。

映画関連では、BSプレミアムシネマで放送する外国映画の日本語字幕版制作のほか、阪神・淡路大震災31年特別編成として、総合テレビで近畿ブロックに放送された日本映画「港に灯がともる」など、多数の映画を放送用にフォーマット編集しました。

さらに「世界ふれあい街歩き」の英語版「Somewhere Street」を制作し、NHKワールドJAPANで海外配信されたほか、NHKの多岐にわたる番組の副音声解説放送を約2,000本制作しました。

アニメ事業部

総合テレビでは「不滅のあなたへ Season3」「キングダム 第6シリーズ」「SAND LAND」「GAMERA -rebirth-」等、人気漫画や著名IPを原作とする話題作を放送。「不滅のあなたへ」は当社が企画を発意し、幹事として製作委員会を組成して、制作・展開を行いました。

Eテレでは「科学×冒険サバイバル! 第2シリーズ」を放送。多様なテーマで科学について楽しみながら学べるアニメとして、引き続き好評を博しました。また「青のオーケストラ Season2」を放送。高校のオーケストラ部を舞台にした物語で、共感を呼ぶストーリーに加え、著名なソリストや本物のオーケストラによる劇中音楽も話題となりました。

平日に放送した「忍たま乱太郎」は放送開始から33年目を迎え、「おじゃる丸」では「チコちゃんに叱られる」とのコラボ展開やエンディングテーマを歌う郷ひろみさんの番組内フイチャー等、視聴者に楽しんでいただける企画にチャレンジしました。

加えて、人気の「プチプチ・アニメ」「おしりたんてい」「きかんしゃトーマス」「アン・シャーリー」「スマーフ」等の作品も放送しました。

デジタルサービス事業部

Webサイト制作、SNS展開、データ放送などのデジタルテレビ向けサービス、さらに動画配信やシステム運用まで、幅広い分野に対応できる高い制作力・技術力を活かし、引き続きNHKのデジタル発信を支えました。

10月のNHKインターネット必須業務化に関しては、デジタル戦略のサポート、ウェブアクセシビリティ対応の深化、番組サイトの移行・整理などを継続的に支援したほか、年度後半には、複雑な登録システムなどをわかりやすく視聴者に伝える周知広報サイトの拡充にも努めました。

NHKプラスでは、24時間365日の運用監視業務を担い、安定的なサービス提供に貢献するとともに、12月の第76回紅白歌合戦では、特設サイトやSNS発信により、必須サービスへの効果的な誘導に寄与しました。2026年2～3月のミラノ・コルティナオリンピック・パラリンピックでは、サイトやアプリを通じて総合テレビ・Eテレの同時配信や見逃し配信に加え、放送で伝えきれない中継映像などを多彩に発信するシステム開発・運用サポートなどを担いました。

自主事業では、手話CGサービスの展開を着実に進め、11月に開催された「東京デフリンピック」では、デジタルヒューマン「KIKI」が応援アンバサダーとして活躍し、大会の成功に大きく貢献したほか、東京都のバリアフリー観光の実証実験でも手話CGが採用されるなど、誰もが必要な情報にアクセスできる社会の実現に尽力しました。また、大学向け番組配信事業においては、システム開発・運用サポートを担い、教育分野を支えるデジタルサービスの提供にも取り組みました。

そのほか、生成AIの活用や新たなデジタルサービスの可能性について検討・開発を進めるなど、次代の事業創出に向けた取り組みを継続して行いました。

(2) <イベント事業・ソフト制作>

イベント事業部

全国の高専生たちがAIを使った事業案を創出して競い合うディープラーニングコンテストは、2025年度から主催の一員としてプロジェクトを牽引しました。

東京都から受託したパラスポーツ普及事業は、グループ会社のNHKプロモーションやNHK文化センターも参画する大型案件となり、多くの観客が来場し、その満足度を含めて大成功したイベントとなりました。

ライブエンターテインメントでは、「忍たま乱太郎」関連の舞台やミュージカルが継続して高い人気を博して、新たな観客が来場。ファン拡大と満足度向上の双方を達成することが

できました。

4月から開幕した大阪・関西万博では、国内外のVIPを招いた開会式のほか、地球温暖化をテーマにしたアニメ「Future Kid Takara」や、能楽協会から受託した「未来につなぐ、能楽の世界」の上演などを担当して、夢洲に会場した多くの万博ファンを魅了しました。

映像遺産の魅力を再発見するNEPビデオレストアサービスを活用した事業については、外部のレコード会社と連携して、昭和歌謡のレストア映像を国内の大型施設で上映し、往年のファンを集めました。

(3) <地域での番組制作、事業>

近畿総支社・四国支社

近畿総支社では、全国放送の「探検ファクトリー」「歴史探偵」「きょうの料理」「すてきにハンドメイド」「芸能きわみ堂」「日本の話芸」、国際放送の「Core Kyoto」、地域放送の「ぐるっと関西&万博おひるまえ」「ええトコ」「上方推しらくご」等を制作。四国支社では全国放送の「夏井いつきのよみ旅!」、地域放送の「ギュッと!四国」「ノルノルミシル!」等を制作しました。さらに特集番組として、近畿総支社では全国放送の「超体感!八雲が愛した神々の里 ばけばけ出雲旅」、地域放送の「鉄オタ選手権」「世界記録に挑戦!大阪・関西万博で史上最大の盆踊り」「発掘☆BK100年遺産 スポーツお宝アーカイブ全部見せます!」等を制作。四国支社では全国放送の「スポーツ×ヒューマン“聴こえない声”を力に」、地域放送の「“絵本王国”高知 創作を支えるふるさと」等を制作しました。

NHKからの受託事業では、「うたコン」等の公開番組や番組と連動したイベントを近畿で47件、四国で22件実施しました。大阪放送局開局100年の年として、アトリウムを会場に実施した「BK100年まつり」やファミリー層向けの複合イベント「NHKファミリーひろば in 堺」等の展示・体験イベントを行ったほか、こどもたちの防災意識の向上につなげる「NHK防災サバイバル」を開催しました。さらに、大河ドラマ連動施策として、「べらぼう」や「豊臣兄弟!」の関連イベント等も行いました。展覧会事業では、奈良国立博物館「超 国宝」、京都国立博物館「日本、美のるつぼ」、大阪中之島美術館「日本美術の鉾脈展」の3件のNHK共同事業を実施し、いずれも想定を大きく上回る入場者を記録しました。

自主事業では、大阪・関西万博の開催に伴い、公式撮影・記録映像集制作業務、メディアセンター運營業務、大阪ウィーク関連事業等を受託しました。さらに、「全国豊かな海づくり大会 美し国みえ大会」および「ながさきピース文化祭」において、天皇皇后両陛下ご臨

席のもと、実施運営業務を受託し、自治体および関係各所から高い評価を得ました。加えて、NHK大阪ホールの管理運営業務についても、安全・安心を最優先に着実に遂行しました。

中部支社

NHK名古屋放送局開局100年に当たって、中部支社の企画・制作により、放送・イベント・広報を連動させたキャンペーンを7月に展開しました。放送では金曜夜間の特別番組のほか、夕方のニュース番組や昼前の情報番組、ラジオ、ミニ番組などで多様なコンテンツを発信しました。イベントではプレ事業により機運を高めるとともに、近隣7施設と連携した取り組みを行い、来場目標を上回る成果を上げました。これらにより、NHK地域局のイメージアップと地域の活性化に寄与しました。

放送ではその他に、歴史番組の出演も多い愛知出身の“城博士”千田嘉博さんを起用した「おもシロいぜ！城歩き」で、郷土が誇る城の数々を紹介。全国を揺るがすクマ出沒を取り上げた「東海ドまんなか まちに忍び寄るクマ」では、番組の歴代最高視聴率を獲得するなど、地域の視聴者のニーズに応える番組を制作しました。

自主事業では、大河ドラマ「べらぼう」「豊臣兄弟！」、連続テレビ小説「ばけばけ」の関連事業を13の自治体等から受注・制作。NHKの人気コンテンツのさらなる魅力を視聴者に届け、地域を盛り上げる取り組みとなりました。企画美術展では、「造形作家 玉田多紀 ダンボール物語」や「針金造形アーティスト 橋 寛憲」「かたわらには、いつもネコ」など現代作家の作品で構成する展示制作行い、作家によるワークショップも開催して、地域の子どもたちと交流する文化事業として展開しました。

中国支社

金曜夜間の地域番組「コネクト」では、小野文恵アナウンサーが中国地方各地の魅力を伝える「ブラフミエ」や中国地方ゆかりの著名人の半生記「わたしの足跡」、スタジオにカープファンが集結して熱い議論を繰り広げる「カープ県民大会議」等を放送。また、被爆80年の節目をとらえ、平和教育のあり方を議論した「みんなの会議」やアニメ作品を通じて戦争を考える「『この世界の片隅に』の舞台を訪ねて」等の特集番組を集中的に放送しました。610「お好みワイド」では街歩き企画「みっけ」が人気コーナーとして定着しています。

イベントでは、毎年多くの観客を集めるひろしまフラワーフェスティバルに合わせて広島放送局で「NHKシクラメンパーク」を行ったほか、大河ドラマ「豊臣兄弟！」で福山市にもゆかりのある足利義昭を演じる尾上右近さんのトークショーなどを実施しました。被爆80年関連では、広島駅のリニューアルに合わせたイベント「ピースステーション」を運営し

たほか、広島市からの受託でA Iを活用した「被爆体験応答装置」を納品しました。

九州支社

地域情報番組「はっけんTV」「はっけんラジオ」を平日に生放送。夕方の610ローカルニュース「ロクいち！福岡」では“九州の食”に関する特集コーナー「バリうま探し隊」を年間25本制作しました。その他、NHKアーカイブス映像を活用した特集番組「映像タイムマシーン九州沖縄」を、NHK福岡放送局開局95周年に合わせて新たに2本制作。また、2025年度に開発した、人気俳優が九州各地を小型の折り畳み自転車で旅する番組「ミニベロ出会い旅」を計7本制作しました。そして、5年目を迎えた、魚離れを食い止め漁業関係者を応援する「ウオカツ！」を4本制作するなど、九州沖縄地方の魅力を存分に伝えました。さらに、特集番組として、ミスコンテスト世界一に輝き、ハリウッドで俳優・スタントとして活躍した吉松育美さんがふるさと九州を旅する「ミュージックトラベラー」や、大相撲九州場所直前スペシャル「あつまれ！ふるさと力士」などを制作。このほか、九州国立博物館で開催された特別展「法然と極楽浄土」関連のミニ番組を制作し、入場者数の目標達成に大きく貢献するなど、地域放送・地域文化の充実に力を果たしました。

イベントでは、8月9日に行われた長崎被爆80年特別企画「クスノキの祈り」や「うたコン福岡スペシャル」公開収録などの運営業務を実施。また、展覧会事業では、九州国立博物館・特別展「法然と極楽浄土」の運営業務などを行いました。

独自事業では、九州国立博物館所蔵「唐船・南蛮船図屏風」の展示映像制作や「第77回九州歯科医学大会」の運営業務を実施。また、熊本市博物館では連続テレビ小説「ばけばけ」番組紹介コーナーの制作業務などを行い、NHKIPの地域での展開に尽力しました。

東北支社

全国放送では、横手盆地の夏から秋を描いたBS「新日本風土記 秋田 おいしい横手盆地」を制作、ほかの回より高い視聴率を獲得したほか、秋田地域の総合・金曜730用にリメイクした番組は秋田局の年間最高視聴率を記録しました。また、数年前から東北ブロック放送の「あなたの町の映像アルバム」で培ってきたアーカイブス活用のノウハウを生かして、放送100年特番「みんなでカラー化」を制作するなど、新たなアーカイブス活用施策にも取り組みました。

地域放送では、宮城出身で東日本大震災の被災経験があるNHK交響楽団の若きコンサートマスター・郷古廉さんが、震災から15年の節目に故郷に寄せる思いを描いたドキュメンタリー「ふるさとに贈る音色」を制作。全国でも再放送されました。

イベントでは、自主事業として、福島市からの依頼で「古関裕而記念音楽祭」を、石巻市の依頼で「全国鯨フォーラム」を実施したほか、宮城県障害者スポーツ協会の依頼で「宮城県小学生ボッチャ大会」を配信しました。

北海道支社

全国放送では、「さわやか自然百景」「うまいッ!」「あさいち」「釣りびと万歳」「午後 LIVE ニュースーン」「明日をまもるナビ」などの定時番組のほか、年始特番「さわやか自然百景新春特集」を制作。国際放送では、「IMFACTS」「Train Cruise」を制作しました。地域放送では、定時番組の「おはよう北海道」「ほっとニュース北海道 ほっと中継」「北海道道」のほか、アーカイブス映像を活用した放送100年特番「あなたの町の映像アルバム」「こども映像アルバム」「時代を支えた北海道の鉄道」を制作し、地域放送の充実に貢献しました。

イベントでは、「Nコン」「のど自慢」など公開番組を運営したほか、札幌放送会館での地域戦略イベントとして、夏と冬の会館公開や、1階ロビーで通年展示した恐竜カムイサウルス全身復元骨格を活用した催しなどを実施し、多くの親子連れが訪れました。

自主事業では、北海道からの受託で戦後80年北方領土啓発特別映像を制作したほか、NHKの恐竜関連番組を活用した親子向けのトークショーを大型商業施設で実施しました。

(4) <映像ソフト販売>

映像ソフトの販売については、連続テレビ小説「あんぱん」、大河ドラマ「べらぼう」、「宙わたる教室」などで、成果を上げることができました。そのほかにはドラマでは、「岸辺露伴は動かないⅣ 密漁海岸」「ひとりでしにたい」「エンジェルフライト 国際霊柩送還士」「しあわせは食べて寝て待て」などを販売し、好評を得ることができました。ドラマ以外では、「世界はほしいモノにあふれてる 1st シーズン」「ごろごろパンダ日記 コンプリートBOX」などを販売しています。

グループ会社のNHKエデュケーショナルの協力によりリリースしたタイトルでは、映画「大長編 タローマン 万博大爆発」、「デザインあ neo」、「おかあさんといっしょ」の「最新ソングブック たからもの」「ファミリーコンサート ～みちのみち～」、「いないいないばあっ! おうえん! おう! おう!」などが好調でした。またNHKグローバルメディアの協力により「NHKテレビ体操」を販売し、好評を博しました。

NHKのアーカイブスアニメとして「飛べ! イサミ」「YAT 安心! 宇宙旅行」「コレクター・ユイ」を商品化しました。また、こども向けの「図鑑 MOVE」では、「はじめてのずかん うちゅう」「鉄道 新訂二版」「お金と経済」の3作を新たにラインナップに加えました。さら

に、「にっぽん縦断こころ旅 2011セレクション」「京都人の密かな愉しみ ブルーレイ」などを販売し、再販売を含めて新たに48タイトルをリリースしました。

(5) <番組提供>

放送事業者への番組提供

<チャンネル銀河><AXN><時代劇専門チャンネル><BS日本><歌謡ポップスチャンネル>など27チャンネルに対し、ドラマ、ドキュメンタリーをはじめ、アニメ、音楽番組、韓国・中国・欧米ミステリードラマなど、113タイトルを提供しました。ケーブルテレビ事業者には、27局へ大河ドラマ「麒麟がくる」連続テレビ小説「おしん」「まんぷく」など48タイトルを提供しました。

VOD事業者への番組提供

<AMAZONプライム><U-NEXT><ドコモ・アニメストア><Hulu><FOD><アニメタイムズ>など全18事業者に、アニメ番組や幼児番組（DVD原盤）、韓国・中国ドラマなど海外番組を含めて427タイトルを提供しました。

素材提供業務

NHK財団で行っていた「海外法人へのNHK素材の提供」を、プライバシーポリシー等を新たに整備し、4月から当社に業務移管しました。国内外の素材に関する受付窓口が統一されることにより、使用希望者の利便性は格段に向上しました。

また、(福)NHK厚生文化事業団、(公財)放送番組センター、(福)聴力障害者情報文化センターの3公益団体への番組提供も例年どおり実施。NHK番組の利活用に貢献しています。

(6) <キャラクタービジネス>

ドラマの展開について、大河ドラマ「べらぼう」の書籍ライセンスは初参入の小学館含め5社、53万部。ロゴでは湖池屋のポテトチップスでの全国展開を、また、中央区ほか舞台地でのイベントなどを実施しました。「豊臣兄弟!」は好調なスタートを切り、書籍ライセンスは史上最多の6社で展開。ロゴでは、名古屋・長浜・大和郡山の大河ドラマ館3館でお土産菓子・食品・雑貨などを幅広く展開し、リピートの申請も多くなっています。

「忍たま乱太郎」は劇場公開終了後も商品展開が引き続き好調に推移しました。ムービッ

クによる催事商品やサンリオコラボ、バンダイなど既存商品の販売は堅調で、ミュージカル（再演・コンサート等）も高い動員を記録しました。東武動物公園、佐賀県、JR東海、ファミリーマートとの各種コラボレーションも好調で、全体として計画を大きく上回る成果を挙げました。「魔入りました！入間くん」では、2026年4月開始の第4シリーズ放送に先駆けて声優イベントを実施し、商品一斉展開に向けた準備も順調に進んでいます。

2025年度に立ち上げた「NHK平成レトロキャラクターズ」は平成レトロブームの追い風を受け、順調なスタートを切りました。「プチプチ・アニメ」では、新たに12社とライセンス契約を締結。また、「がんこちゃん」「おじゃる丸」もブランド化が進み、カプセルトイや雑貨を中心に好調な実績を上げています。一方、「いないいないばあっ！」はキャラクター変更の影響により商品入れ替えが想定ほど進んでいませんが、ユニクロの参入により「みいつけた！」「ファンターネ！」を含む幼児向け全体の売上は増加しています。

（7）＜権利ビジネス＞

海外の番組については、欧米ドラマ「アストリッドとラファエル 文書係の事件録5」「マキシマ オランダ・プリンセス物語」、「デックスの恐竜図鑑」、中国ドラマ「三国志外伝 愛と悲しみのスパイー風起隴西」、韓国ドラマ「世子が消えた」「マイ・ラブリー・ジャーニー」などがNHKで放送されました。また、中国ドラマ「鳳凰の飛翔」、欧米ドラマ「マドモアゼル・ホームズの捜査日記」、韓国ドラマ「青春ウォルダム」「コッソソニビ 二花院の秘密」等を配信・放送で展開。ドキュメンタリーでは「バチカンのスイス衛兵 教皇を守る精鋭たち」「AIの不都合な真実」「名もなき反逆者 ロシア 愛国教育の現場で」、ライフスタイルに関連する番組では、「Made with Love 世界手仕事紀行」が放送されました。クラシック音楽番組では、「世界遺産の城で聴く！ノイシュヴァンシュタイン城コンサート」、ダンス「メッセージ・イン・ア・ボトル」などが放送されました。

海外番組販売では、「火星の女王」「テミスの不確かな法廷」「団地のふたり」「ひとりでもにたい」などがグローバル配信され、そのほか連続テレビ小説「ばけばけ」「あんぱん」や大河ドラマ「べらぼう」「豊臣兄弟！」などが販売されました。アニメでは「不滅のあなたへ Season3」「青のオーケストラ Season2」、ドキュメンタリーでは「“一億特攻”への道～隊員4000人 生と死の記録～」 「恐竜超世界2」などが販売されました。

(8) <NOD事業>

NHKオンデマンド（NOD）受託事業

NOD配信番組の権利処理、権料支払い、原盤・メタデータ制作、編成表作成等の一連の業務を確実に実施し、NODサービスの拡充を支えました。2025年10月のNHK ONE開始にともなう配信スケジュールの変更や、NODのホームページ・アプリのユーザーインターフェースの改善にも対応しました。「蔵出し配信」では、配信番組のジャンルをドキュメンタリー・スポーツ・エンターテインメントなどへ拡大し、連続テレビ小説「あんぱん」や大河ドラマ「べらぼう」「豊臣兄弟!」「新選組!」、「紅白歌合戦」、「未解決事件」などの番組がよく見られました。配信番組のリスクチェック業務では、地域部や支社と連携して的確な報告を行いました。

そのほか、NHKデジタルセンターの依頼によりNHK ONE（NHKプラス）の原盤制作、上半期はTVer提供番組の原盤制作も実施しました。

(9) <業務支援>

アーカイブス事業

NHK放送番組の映像・音声素材・データの登録・保存及びアーカイブス活用を支援する業務を継続して行いました。MCG素材再利用アドバイス業務では、過去最多の年間1,530件を超える問合せに対応し、二次使用のリスクを防ぐとともに、調査をもとにアーカイブス情報システムに記載されたメタデータの更新を行い、データベースの信頼度を高めました。

「フィルムの見える化」業務では、過去の国内外ニュースや番組素材など約6,200のコンテンツのフィルムをファイル化。放送100年関連事業や番組、地域のニュースなど幅広く活用されました。

アーカイブス未保存の番組テープを探し出して保存化する業務では、芸能・教養・科学など幅広いジャンルのテレビ番組397本、ラジオ番組972本、台本213冊の計1,582コンテンツを発掘、登録しました。視聴者からの提供で発掘された「アニメーション紀行マルコ・ポーロの冒険」の総合テレビの放送に合わせてトークイベントを開催。他にもアーカイブスを活用して地域放送局との連携イベントやアーカイブス保管のレコード展示などを実施しました。アーカイブスに保存された過去の膨大な番組や映像素材を活用した多彩な番組制作も行いました。新番組「ギョギョっとイッキ見TV」をはじめ「時をかけるテレビ～今こそ見たい!この1本～」、「4Kプレミアムカフェ」、「よみがえる新日本紀行」等を放

送。

また「映像の世紀バタフライエフェクト」の映像リサーチ・権利確保業務では定時番組に加えて、放送100年の節目に第二次世界大戦を記録した国内外の貴重なフィルムを8Kの高精細でデジタル化・収集し、「映像の世紀 高精細スペシャル ヨーロッパ 2077日間の地獄」を制作するなど、アーカイブス番組の存在感を高めました。

著作権・権料支払業務

NHK知財センター著作権・契約部との連携のもと、各種事業展開に関わる権利処理についての情報集約、管理、相談への対応および映像コンテンツ権利処理機構（ARMA）、JASRACなどの権利者団体等との調整を行い、円滑な事業展開を支援しました。また、ビデオグラム、NOD、CS・BS、CATV、航空機内上映への提供等、番組二次展開に関わる権利者への権料支払業務、NHKからの制作受託番組の放送料支払いの審査業務など、権利関係業務に幅広く対応しました。また、知財センター著作権・契約部から国際契約作成業務を受託しました。

権利確保サポート業務

NHK知財センター著作権・契約部からの委託により、「新プロジェクトX～挑戦者たち～」 「プロフェッショナル 仕事の流儀」などのドキュメンタリーや、大河ドラマ「べらぼう」「豊臣兄弟!」、連続テレビ小説「あんぱん」「ばけばけ」などのドラマについて、制作部門と連携して放送、配信、海外発信などの権利を確保し、併せて権利情報データ作成も行いました。

NHK第1制作センターからは、一部の学校放送番組の再放送や展開のための権利情報整備業務に加え、「NHKラーニング」で配信されるコンテンツの権利処理業務を受託し、権利者への支払い業務までを担当しました。

またNHKの国際放送局からはNHKワールドプレミアム提供における権利確認業務を、展開センターからは放送番組センター、聴力障害者情報文化センター、厚生文化事業団などへ無償で番組を提供する際に、権利情報を収集・整備する業務を受託しました。

一般事業者向けの番組提供では、自治体に「さわやか自然百景」を提供するなど7件に対応し、NHKの副次収入の獲得に貢献しました。

(10) <新規事業等への取り組み>

イノベーション戦略室

2025年度も引き続き、新規事業開発の開発に精力的に取り組みました。ユニバーサルサービスでは、NHKグローバルメディアサービスと共同開発した手話CGキャラクター「K I K I」が、東京2025デフリンピック応援アンバサダーとして活躍し、聴覚障害者アスリートの国際大会の成功に貢献しました。さらに大会終了後は、筑波技術大学に在籍する聴覚障害者の学生たちと協力し、都内の公共交通機関の一部や、一部の宿泊施設でK I K Iによる案内サービス「手話コンシェルジュ」の実証実験をはじめています。(東京都からの支援事業)。また、別の新規事業として、既存の映像コンテンツを多言語に展開する作業を低コスト・短期間で行える、最新の音声AIを活用した社内向けサービス開発に取り組みました。

年間を通じて、他の関連団体と共同で、社内向けビジネスコンテスト「未来投資会議2025」を企画・運営しました。

(11) <リスクマネジメント、コンプライアンス、情報セキュリティへの取り組み>

リスクマネジメントの維持・強化とコンプライアンス推進のため、リスクマネジメント委員会を計3回開催しました。この中で、内部通報窓口の周知や、2025年度の活動方針、内部統制の整備状況、新たに導入されたリスクマネジメント実施計画と結果報告の審議・承認、リスク事例の報告などを行いました。

社内トラブルや相談等には迅速に対応し、NHKグループのリスクにつながるおそれのある事案については、適宜NHKメディアホールディングスと連携して対応し、NHKの所管部門と共有しました。

NEP独自の取り組みとして、年々充実させてきた業務プロセス図の作成を支援し、各部門とレビュー面談を行って、業務プロセスから抽出されたリスク評価について助言しました。

コンプライアンス推進強化月間には、個人情報漏えい防止などサイバーセキュリティの確保をテーマに、社外講師による全社向け研修を行いました。NHKやNHKメディアホールディングスによるグループ研修にも参加したほか、各部門において様々なテーマで勉強会を実施しました。

3月には、ハラスメント防止の取り組みをさらに高めるため、全社員対象の研修を実施したほか、当社では初めて、フリーランスを含む外部スタッフも対象にしたハラスメントの実情を探るアンケートを実施しました。

情報セキュリティへの取り組みとしては、4月に3年に一度のISMS更新審査を受け、登録継続が承認されました。また、PC紛失やサイバー攻撃に対する営業時間外の対応窓口を設置しました。さらに、NHKおよびNHKメディアホールディングスと連携し、情報セキュリティ・リスク診断や標的型攻撃メール訓練、サポート詐欺訓練を実施するなど、全社のITリテラシーの向上に努めました。

業務点検実施要領に則り、業務点検担当者が5部門の業務点検を行いました。点検結果はその都度社長に報告したうえで、監査役に手交するとともに、常勤役員会で報告しました。

展開企画部

メディアミックスは「忍たま乱太郎」「魔入りました！入間くん」「豊臣兄弟！」などが順調に数字を伸ばしたほか、NHK自然番組を活用したオリジナルコンテンツ「相葉さんの冒険」をAmazonで先行公開。NHKから委託業務で「オリパラ」や各種ドラマのPRの受託を受けたほか、その知見を活用しNEP展開IPや事業のPRも行いました。共通業務では引き続き、センターの会議の開催や副次収入のとりまとめを行ったほか、映画など各部の出資案件や海外との共同制作などをサポートするとともに、地域創生やVRに関する新規事業にも取り組みました。

DX推進部

基幹システムであるSING/SAPは、著作権領域の改修やジョブカン、ポジティブとの連携などの改修を加えて、利便性の向上に努めました。

また、不正アクセスや情報漏えいを防ぐため、TeamsやBOXのアクセス権の棚卸しを適宜実施。

急速に進化する生成AIについて、ガバナンスや実装するCopilotの使い方を学ぶ必須研修と、応用研修を実施しました。

そして、昨年度に続き無線LAN化など地方支社のIT環境向上を図りました。

(12) <分野別売上高>

(単位：千円)

| 区 分 | 第36期 (2024.4.1~2025.3.31) | | 第37期 (2025.4.1~2026.3.31) | | 対前年度増減 | |
|-------------|------------------------------|--------|------------------------------|--------|------------|--------|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | 金額 | 増減率 |
| 放送番組制作 | 39,621,783 | 64.1% | 37,831,296 | 59.7% | △1,790,487 | △4.5% |
| 映像ソフト販売 | 1,756,867 | 2.8% | 1,492,097 | 2.4% | △264,770 | △15.1% |
| イベント・ソフト制作 | 7,943,809 | 12.8% | 13,580,267 | 21.4% | 5,636,458 | 71.0% |
| 番組提供・デジタル制作 | 3,994,428 | 6.5% | 3,984,041 | 6.3% | △10,387 | △0.3% |
| キャラクター事業 | 766,968 | 1.2% | 1,498,393 | 2.4% | 731,426 | 95.4% |
| 権利ビジネス | 6,700,194 | 10.8% | 3,696,667 | 5.8% | △3,003,527 | △44.8% |
| NOD事業 | 1,073,989 | 1.7% | 1,330,370 | 2.1% | 256,381 | 23.9% |
| 合 計 | 61,858,038 | 100.0% | 63,413,133 | 100.0% | 1,555,095 | 2.5% |

※構成比・増減率は小数点第二位以下を四捨五入して表示

(参考) 2025年度 コンクール等受賞一覧

【国内コンクール】

| コンクール名 | 部門/賞 | 番組および賞品名 |
|-----------------------|-------------------|--------------------------------------|
| 第66回科学技術映像祭 | 一般部門 文部科学大臣賞 | NHKスペシャル「ディープオーシャン 幻のシーラカンス王国」 |
| 第62回ギャラクシー賞 | テレビ部門 選奨 | NHKスペシャル「“一億特攻”への道～隊員4000人 生と死の記録～」 |
| 第62回ギャラクシー賞 | テレビ部門 奨励賞 | ドラマ10「燕は戻ってこない」 |
| 第62回ギャラクシー賞 | テレビ部門 奨励賞 | また あした ～都営 東糀谷六丁目アパートの一年～ |
| 第62回ギャラクシー賞 | テレビ部門 奨励賞 | 特集ドラマ「憶えのない殺人」 |
| 第62回ギャラクシー賞 | テレビ部門 奨励賞 | ドラマ10「宙わたる教室」 |
| 第62回ギャラクシー賞 | テレビ部門 奨励賞 | ドラマ10「東京サラダボウル」 |
| 第62回ギャラクシー賞 | テレビ部門 奨励賞 | NHKスペシャル 「創られた“真実” ディープフェイクの時代」 |
| 第51回放送文化基金賞 | ドラマ部門 奨励賞 | ドラマ10「燕は戻ってこない」 |
| 第41回 ATP賞 テレビグランプリ | 優秀賞 ドキュメンタリー部門 | また あした ～都営 東糀谷六丁目アパートの一年～ |
| 第41回 ATP賞 テレビグランプリ | 優秀賞 ドラマ部門 | ドラマ10「東京サラダボウル」 |
| 第41回 ATP賞 テレビグランプリ | 奨励賞 ドキュメンタリー部門 | ETV 特集 「巖とひで子 ～袴田事件58年後の無罪～」 |
| 第41回 ATP賞 テレビグランプリ | 奨励賞 ドキュメンタリー部門 | はるかなる古代文明 AIで謎に迫る！ナスカの地上絵 |
| 第41回 ATP賞 テレビグランプリ | 奨励賞 ドキュメンタリー部門 | BSスペシャル 「告発 ～コソゴ 性暴力サバイバーたちの25年～」 |
| 第41回 ATP賞 テレビグランプリ | 奨励賞 ドラマ部門 | ドラマ10「宙わたる教室」 |

| | | |
|----------------------|---------------------------|--|
| 映文連アワード2025 | ソーシャルコミュニケーション部門 部門優秀賞 | わたしを生きる 認知症とともに歩む社会 |
| 映文連アワード2025 | 特別表彰 優秀撮影賞 | 驚き！地球！グレートネイチャー 「壮観！黄金文明の大地 ～ブルガリア～」 |
| 東京ドラマアウォード2025 | 作品賞 連続ドラマ部門 優秀賞 | ドラマ10「東京サラダボウル」 |
| 第27回ヤング映像クリエイターを励ます賞 | 優秀賞 | 大古 湧之（特集「あなたはひとりじゃない ～ラジオ深夜便35年の物語～」） |
| 第32回キネコ国際映画祭 | 日本作品 短編部門グランプリ | プチプチ・アニメ「ここにぎりくん」 |
| サイバーセキュリティアワード 2026 | 大賞 | NHK スペシャル 「創られた“真実” ディープフェイクの時代」 |

【国外コンクール】

| コンクール名 | 部門/賞 | 番組および賞品名 |
|-------------------------------|---|---|
| 第53回国際エミー賞 | Arts Programming Winner | NHK スペシャル 「Last Days 坂本龍一 最期の日々」 |
| イタリア賞 2025 | イタリア共和国大統領特別賞 イタリア賞(テレビ・パフォーミングアート部門) | NHK スペシャル 「Last Days 坂本龍一 最期の日々」 |
| Venice TV Award 2025 | TELEVISION FILM Winner | 新・爆走風塵 ～中国・トラックドライバー 生き残りをかけて～ |
| Venice TV Award 2025 | ANIMATION Winner | ルカと太陽の花 |
| Venice TV Award 2025 | CINEMATOGRAPHY Winner | NHKスペシャル「ディープオーシャン 幻のシーラカンス王国」 |
| Venice TV Award 2025 | DOCUMENTARY Nominee | NHKスペシャル「“一億特攻”への道～隊員 4000人 生と死の記録～」 |
| Content Asia Award | Best Factual Programme Made in Asia for Multiple Asian and/or International Markets 部門 銀賞 | NHKスペシャル「“一億特攻”への道～隊員 4000人 生と死の記録～」 |
| Content Asia Award | Best Asian Drama Series Made for a Regional or International Market 銅賞 | ドラマ 10「燕は戻ってこない」 |
| ゴールデンプラハ賞 | 最終ノミネート | NHKスペシャル 「闇からの飛翔～ウクライナ国立バレエ～」 |
| Green Screen | 観客賞 | ワイルドライフ SP 「国際共同制作 マイティー モンキー ～日本に新天地を見いだしたサル～」 |
| IBC Innovations Awards | Content Creation 部門 最優秀賞 | NHKスペシャル「ディープオーシャン 幻のシーラカンス王国」 |
| German Natural History Awards | 観客賞 | ワイルドライフ SP 「国際共同制作 マイティー モンキー ～日本に新天地を見いだしたサル～」 |
| 55th USA FILM FESTIVAL | 国際短編アニメーション部門 最優秀賞 | ルカと太陽の花 |

3. 対処すべき課題

2025年度はNHKからの委託の減少が本格化し、NHK委託費は、これまでになかった、前年度比40億円以上という規模で縮小。NHKは2026年度も事業支出を削減する方針で、継続する物価高や価格転嫁への対応など、当社を取り巻く経営環境は、依然として厳しい状況が続くと考えざるを得ません。

その一方で、このNHK委託の減少を見据えて「2024-2026年度 中期経営計画」に掲げた、当社の強みである、制作と展開の「両輪の進化」、そして自主事業、特にNHKグループのIPを展開する事業の拡大強化は、2025年度に大きな成果を挙げることができました。アニメ「忍たま乱太郎」「不滅のあなたへ」、ドラマ「岸辺露伴は動かない」「正直不動産」といった、訴求力の高いコンテンツに基づく大型で多彩な展開事業や、ライブエンターテインメント、イベント、展覧会など幅広いジャンルで、新規も含む事業を手がけ、自主事業の売上を前年度比で55億円以上伸ばすことができました。全社の部門が連携を深めて事業の開発・獲得に取り組むことで、厳しい環境の中でも持続可能な経営基盤を築いていける、確かな手応えを得た1年となりました。

NHKエンタープライズは2026年度、こうした試みをさらに深化・加速させていきます。展開の起点となる、NHKのフラッグシップとなる番組や、世界にも通用する魅力的なコンテンツを生み出す取り組みには、AIなど先進技術の適正な導入や、社外のすぐれた才能との協力も図りながら、継続して注力していきます。自主事業・IP展開事業に関しては、部門を超えた協働やNHKグループ各社との連携を一層進めて、多様な施策を開発・実行するとともに、新たなパートナーの開拓も進めていきます。

そして、事業や業務の遂行に当たっては、コンプライアンスの一層の強化を図るとともに、人権の尊重、DE&I（ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン）の推進、SDGsの達成といった、多様性を尊重する持続可能な経営を進めていきます。また、社員はもちろん、ともに働くNHKグループのメンバーや国内外の制作者・事業担当者の、やる気とクリエイティブを徹底して尊重し、NEPの仕事に携わる一人一人にとって、風通しがよく共感に満ちた組織を構築していきます。

4. 設備投資等の状況

当期の設備投資総額は4億4千1百万円で、内容は以下のとおりです。

(単位 百万円)

| 資産の種類 | 取得価額 | 備考 |
|---------------|------|------------------------|
| 有形固定資産 建物・構築物 | 17 | ワークステーション江戸 照明 LED 化工事 |
| | 37 | レイアウト変更工事、その他 |
| 有形固定資産 工具器具備品 | 64 | パソコン |
| | 20 | 編集用大型ハードディスク |
| | 66 | 事務所移転に伴う什器、その他 |
| 無形固定資産 ソフトウェア | 219 | 基幹システム |
| | 13 | RPA、その他 |
| 計 | 441 | |

5. 資金調達の状況

前記の設備投資の資金は、自己資金で充当しています。

6. 事業譲渡・吸収分割または新設分割の状況

該当事項はありません。

7. 事業譲受の状況

該当事項はありません。

8. 他の会社の株式その他の持ち分または新株予約権等の取得の状況

該当事項はありません。

9. 財産および損益の状況の推移

(単位：千円)

| 区 分 | 第 34 期 (2023 年 3 月期) | 第 35 期 (2024 年 3 月期) | 第 36 期 (2025 年 3 月期) | 第 37 期 (2026 年 3 月期) |
|---------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 売 上 高 | 68,052,979 | 63,449,091 | 61,858,038 | 63,413,133 |
| 営 業 利 益 | 4,038,167 | 3,343,765 | 3,634,533 | 4,496,687 |
| 経 常 利 益 | 4,160,332 | 3,410,484 | 3,727,211 | 4,640,641 |
| 当 期 純 利 益 | 4,136,856 | 2,234,140 | 2,596,065 | 3,236,926 |
| 1 株 当 た り 当 期 純 利 益 | 656,683 円 82 銭 | 367,457 円 34 銭 | 426,984 円 48 銭 | 532,389 円 27 銭 |
| 総 資 産 | 38,512,470 | 36,359,009 | 38,508,778 | 37,815,047 |
| 純 資 産 | 20,952,534 | 20,447,920 | 20,809,602 | 20,932,603 |

10. 主要な事業内容

- (1) 放送番組の企画、制作、購入
- (2) 有線テレビジョン放送事業者への放送番組の頒布
- (3) 映像国際放送の実施に関連する業務
- (4) 放送番組に係るコンテンツ等の著作物の発行、頒布
- (5) 放送に関連した催し物や公共的な各種催し物の企画、実施

1 1. 主要な事業所等

本 社 東京都渋谷区神山町4番14号 第三共同ビル
近畿総支社 大阪府大阪市中央区谷町三丁目1-18 NS21ビル
四国支社 愛媛県松山市堀之内5 NHK松山放送局内
中部支社 愛知県名古屋市東区東桜一丁目13-3 NHK名古屋放送センタービル
中国支社 広島県広島市中区大手町二丁目11-10 NHK広島放送センタービル
九州支社 福岡県福岡市中央区六本松一丁目1-10 NHK福岡放送センタービル
東北支社 宮城県仙台市青葉区本町2丁目20番1号 NHK仙台放送局内
北海道支社 北海道札幌市中央区北一条西九丁目1-5 NHK札幌放送局内

NHKアーカイブス 埼玉県川口市上青木三丁目12-63
ワープステーション江戸 茨城県つくばみらい市南太田1176

1 2. 従業員の状況

| | 従業員 | NHK退職者 | NHK職員 (出向者) | 増減 | 平均年齢 |
|---|------|--------|----------------|------|--------|
| 男 | 400名 | 123名 | 74名 | △10名 | 52歳8か月 |
| 女 | 203名 | 6名 | 21名 | △1名 | 48歳1か月 |
| 計 | 603名 | 129名 | 95名 | △11名 | 51歳2か月 |

注：役員のほか、NHKなど外部への出向者は含みません。

1 3. 重要な親会社および子会社の状況

(1) 親会社の状況

当社の親会社は、株式会社NHKメディアホールディングスで、当社の株式6,080株を保有しています。これは当社の議決権の100%にあたります。なお、NHKメディアホールディングスは、NHKの子会社に当たることから、当社はNHKの放送法上の子会社です。当社は、NHKからの委託による放送番組などの制作と購入、有線テレビジョン放送事業者への放送番組の頒布、映像国際放送の実施、NHKの放送番組に係るコンテンツ等の著作物の発行と頒布、NHKの放送に関連した催し物や公共的な催し物の企画と実施、これらに関連する業務およびNHKが制作した番組の利用権の購入などを行っています。

(2) 重要な子会社の状況

該当事項はありません。

(3) 親会社等との間の取引に関する事項

当社では、NHKメディアホールディングスおよびNHKとの取引を行うにあたり、独立した第三者との間の取引と同等の条件であることを確認し、取締役会において当該取引について相当との判断を行いました。

14. 主要な借入先と借入額

該当事項はありません。

II. 会社の株式に関する事項

1. 発行可能株式総数 10,000 株
2. 発行済株式の総数 6,080 株
3. 期末株主数 1 名
4. 株 主

| 株 主 名 | 持 株 数 | 持株比率 |
|---------------------|---------|------|
| 株式会社NHKメディアホールディングス | 6,080 株 | 100% |

5. その他株式に関する重要な事項 該当事項はありません。

III. 会社役員に関する事項

1. 役員の状態、氏名、担当、兼職の状況 (2026年3月31日現在)

| 地 位 | 氏 名 | 担 当 | 他の法人の代表または重要な兼職の状況 |
|---------|---------|--------------------------------------|----------------------------|
| 代表取締役社長 | 有 吉 伸 人 | 全体統括 CRO | (株)NHKエデュケーショナル 代表取締役社長 |
| 専務取締役 | 佐 藤 高 彰 | NHK取引統括 SDGs統括 建築管理(建設業経営管理業務責任者) | |
| 常務取締役 | 水 野 直 樹 | 経営企画統括 CHRO NHKグループ支援担当 一般取引補佐 | |
| 常務取締役 | 木 村 功 | 地域統括海外戦略統括 NHK取引統括補佐 | |
| 取締役 | 柴 田 裕 司 | 一般取引統括 IP 展開推進統括 | |
| 取締役 | 田 附 英 樹 | CDXO イノベーション戦略統括 NHK取引統括補佐 | |
| 監査役 | 湯 川 英 俊 | | |
| 監査役(社外) | 海 野 正 一 | | (株)NHK文化センター 監査役(非常勤) |
| 監査役(社外) | 大 月 将 幸 | | 弁護士・公認会計士 |

| | | |
|--------------|------|----------------------------|
| 監査役 (非常勤) | 高橋正美 | (株)NHKメディアホールディングス監査役(非常勤) |
|--------------|------|----------------------------|

注1：2025年6月26日付で、田附英樹が取締役に就任しました。同日付で松本俊博が取締役を退任しました。

注2：監査役 湯川英俊は、内部統制とリスクマネジメントに関する知見を有し、放送事業に高い見識を持っています。監査役(社外)海野正一は、内部統制に関する知見を有し、企業経営に高い見識を持っています。監査役(社外)大月将幸は、弁護士・公認会計士の資格を有し、法務、財務および会計に関する相当程度の知見を有しています。非常勤監査役 高橋正美は、当社の親会社である(株)NHKメディアホールディングスの非常勤監査役を兼任しており、幅広い視点からの的確な監査を行っています。

2. 取締役・監査役の報酬総額

| 役員区分 | 報酬の総額 (千円) | 報酬等の種類別の総額 | | 対象役員数 |
|------------------|---------------|------------|--------|-------|
| | | 定額部分 | 変動部分 | |
| 取締役 (社外役員を除く) | 95,034 | 74,940 | 20,094 | 7 |
| 監査役 (社外役員を除く) | 21,480 | 18,960 | — | 3 |
| 社外役員 | 14,904 | 14,904 | — | 2 |

※ 使用人兼務取締役の使用人給与部分を含みます。

3. 社外役員に関する事項

社外監査役

社外監査役のうち、海野正一監査役は当年度中に8回開催された取締役会に8回出席、5回開催された監査役会に5回出席し、当社の業務執行における適正性確保の観点から提言をしています。大月将幸監査役は当年度に8回開催された取締役会に8回出席、5回開催された監査役会に5回出席し、当社の業務執行における適正性確保の観点から提言をしています。

IV. 会計監査人の状況

1. 会計監査人の名称

EY新日本有限責任監査法人

2. 会計監査人の報酬等

公認会計士法第2条第1項の業務に関する報酬 29,800千円

注1：当社の監査役会は、前事業年度における監査計画と実績の比較を行い、監査時間および報酬額の推移を確認し、当事業年度の監査予定時間および報酬額の妥当性を検討した結果、会計監査人の報酬について、会社法第399条第1項および第2項の規定による同意を行っています。

3. 会計監査人の非監査業務の内容

該当事項はありません。

4. 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

会社法第340条第1項各号に掲げられている事由およびこれに準ずる事由等を会計監査人の解任または不再任の決定根拠としています。

5. 会計監査人の責任限定契約の内容

該当事項はありません。

備考：報告中の記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示してあります。

V. 業務の適正を確保するための体制および運用状況

1. 業務の適正を確保するための体制

当社は、会社法第362条第4項第6号の規定や会社法施行規則の規定に従い、当社の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）について、以下のとおり、取締役会で決議しています。

業務の適正を確保するための体制の整備に関する決議（2023年8月29日取締役会決議）

（1）取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

①当社は取締役、社員を含めた行動規範として、「NHKエンタープライズ倫理・行動憲章」と「行動指針」を定め、これらの遵守を図っている。取締役、社員のコンプライアンスの徹底を図るため、「コンプライアンス相談・通報規程」「相談・通報窓口」などを社内に効果的に周知し、適宜、法令等の遵守状況をモニタリングしている。また、「インサイダー取引防止規程」を定め、取締役、社員等によるインサイダー取引の禁止を規定している。

②取締役会については、「取締役会規則」に基づき、適切な運営を確保し、定例で開催するほか、必要に応じて随時開催し、取締役間の意思疎通を図るとともに、相互に業務執行を監督し、法令・定款違反行為を未然に防止する。万一、取締役が他の取締役の法令・定款違反行為を発見した場合は直ちに監査役および取締役会に報告するなどして、その徹底を図る。

③同様に、社長、常勤取締役等で構成する常勤役員会については「役員規程」、または「執行役員規程」を遵守し、職務執行の法令・定款への適合を確保する。また、監査役は、取締役の職務執行、経営機能に対する監督強化を図る。

④コンプライアンスに関する研修や、社内報等による啓発、社員総会を通じて、全社的な法令遵守の推進を図るとともに、「稟議規程」「職務権限規程」「経理規程」等により、取締役および社員の職務執行の透明性を向上させる。

（2）取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

①「文書管理規程」の整備によって、職務の執行に係る文書・情報の扱いを明文化し、取締役の職務の執行に係る文書・情報の適切な保存および管理を図る。

②「株主総会議事録」「取締役会議事録」「常勤役員会議事録」については、「文書管理規程」に基づいて適切かつ確実に保存・保管し、取締役および監査役が常に閲覧可能な状態に置く。

③情報セキュリティの確保に関する規程を設け、情報システムの安全かつ適正な管理・運営を行う。

④個人情報については、法令および「個人情報保護規程」に基づいて厳重に管理する。

(3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ①「リスクマネジメント委員会運営に関する規程」を定め、社長を委員長とする「リスクマネジメント委員会」を設置し、「NHKグループ コンプライアンスおよびリスクマネジメントに関する規程」に則り、全社的にリスク管理体制の整備・運用にあたる。
- ②投資的リスク、下請法等法令違反につながるリスク、不正アクセスや情報漏洩等、情報セキュリティに関するリスクに対して、信用調査や対応マニュアルの整備等を通じて対策を図る。また、公共放送グループの一員として、金銭、情報等の取り扱いについては特に厳正を期す。
- ③親会社であるNHKメディアホールディングスの内部監査室による監査を受け、必要な改善を行う。また業務点検担当者を置き、業務活動の遂行状況を点検・評価するとともに改善提案等を行う。
- ④危機管理と予防的管理についての体制を充実させ、研修等を含め、損失の危険の管理について全社的な認識向上を図る。

(4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ①職務分掌に関する諸規程を定め、取締役および各部門の所管と権限を明確にし、経営に関する意思決定および職務執行を効率的かつ適正に行う。
- ②重要な意思決定については、常勤取締役等による役員会などにより多面的に検討し、慎重に決定する仕組みを設けている。

(5) 当社ならびにNHKグループにおける業務の適正を確保するための体制

- ①NHKは、子会社等の事業が適切に行われることを目的として、「関連団体運営基準」により、子会社等の事業運営およびこれに対するNHKの指導・監督等に関する基本的事項を定めており、当社もその適用を受ける。
- ②NHKは、「関連団体運営基準」に規定する事項およびNHKが指定する事項について、監査法人等に委嘱して子会社等の業務運営状況調査を実施し、監査法人等の報告に基づき、子会社等に対し必要な指導・監督を行っており、当社もその適用を受ける。
- ③NHKの監査委員会が当社に対し事業の報告を求め、または業務および財産の状況を調査する場合には、適切な対応を行う。
- ④NHKの「リスクマネジメント規程」に基づき、リスクの発生防止に係る管理体制を整備し、NHKおよびNHKグループの業務の円滑な運営の確保を図る。
- ⑤「NHKグループ コンプライアンスおよびリスクマネジメントに関する規程」法令違反・内部規程違反等の不正行為等についての通報制度を整備するとともに、NHKグループに係るリスクについては、リスクマネジメント責任者は直ちにNHKの総合リスク管理組織に対して通報の内容等を報告する。

(6) 監査役の職務を補助すべき使用人に関する事項および当該使用人の取締役からの独立性に関する事項

①監査役からの求めがあった場合には、監査役の職務を補助すべき使用人として、当社社員から監査役補助者を任命する。監査役補助者の任命、解任、人事異動、賃金等については監査役の同意を得たうえで、取締役会で決定する。

②監査役補助者は、当社業務を兼務することができるが、監査役より監査業務に必要な命令を受けた場合は、その命令に関して、取締役等の指揮命令を受けないものとする。

③監査役の職務を補助する部署を人事・総務部および経理部とする。監査役より監査業務に必要な命令を受けた社員は、その命令に関して取締役等の指揮命令を受けないものとする。

(7) 監査役への報告に関する体制

①取締役または使用人は、法定の事項に加え、当社に重大な影響を及ぼす事項やコンプライアンス違反等の事実が生じた場合には、速やかに監査役に報告するものとする。

②監査役は、いつでも必要に応じて、取締役および使用人に対して報告を求めることができる。

③当社は、監査役に報告をした者に対して、その報告を行ったことを理由として不利益な扱いを行うことを禁止し、これを徹底する。

(8) その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

①監査役は、重要な会議に出席するとともに、議事録が作成された場合は、その事務局はこれを監査役に送付する。

②監査役は、親会社であるNHKメディアホールディングスによる監査の結果とその改善状況について報告を受け、定期的な情報交換を行う。

③監査役の職務の執行について生じる費用等を支弁するため、一定の予算を設ける。監査役がその職務の執行につき、費用の前払い等を請求したときは、係る費用または債務が当該監査役の職務の執行に必要でないことを証明した場合を除き、速やかに当該費用または債務を処理する。

2. 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当社の取締役会は、取締役6名で構成されていて、社外監査役2名を含む4名の監査役も出席し、業務執行取締役から業務執行状況の報告が行われるとともに重要事項の審議・決議を行っています。

また、常勤監査役は、取締役会のほか常勤役員会等の社内の重要会議に出席するとともに、取締役から業務執行の状況について直接聴取を行い、業務執行の状況や内部統制、コンプライアンスに関する問題点を監視する体制を整備していて、経営監視機能の強化および向上を図っています。

コンプライアンスに関する取り組みの状況では、社長を委員長とする「リスクマネジメント委員会」を開催し、コンプライアンスやリスクマネジメントに関する報告や決定が行われています。また、全役員、社員等を対象とした研修活動も定期的を実施してコンプライアンスの徹底を図っています。

親会社であるNHKメディアホールディングスの内部監査室による監査を受け、必要に応じて改善を図っています。また業務点検担当者を置き、業務活動の遂行状況を点検・評価するとともに改善提案等を行なっています。

3. 業務の適正を確保するための体制の評価

全社的な内部統制について、NHKメディアホールディングス内部監査室が「統制環境」「リスクの評価と対応」「統制活動」「情報と伝達」「モニタリング」「ITへの対応」という6つの観点から、整備状況および運用状況の有効性を評価しました。

また、業務上重要なリスクを抽出した上で、必要な対応が実施されていることを評価しました。

評価の結果、2026年3月31日時点における当社の内部統制は、概ね有効であると判断しました。